
夢の世界

ドラ狸

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夢の世界

【Nコード】

N2275D

【作者名】

ドラ狸

【あらすじ】

夢、本当に素晴らしいものなのだろうか。もしそれが人を傷つけるものだった時、人はどうすればいいのだろうか。

第一話

「人は何のために生きるんだろうな」

ここは人の喧騒からは遠く離れた森の奥深く、ここに一人の男がいた。このような場所を歩くのには明らかに不向きな白のコートを羽織った男。その男の眼前には白いボールのような機械から発せられている青い光、どうやらそれは離れた場所の人と映像をやりとりするための物なのだろう、青い光の中にひとりの女が映し出されていた。

そして、その女は男の問いかけに対して自分の指を一本たてて言う。

「簡単なことです、人は夢を叶えるために生きてるんですよ」

「そうか夢か、なるほど一理あるな。ちなみにお前の夢は何なんだ？」

その問いかけに女は先ほどとは変わって少し考えた後、目を輝かす。

「やっぱりゴツチのバックの新作ですね」

そういう女に男は優しい笑みを浮かべて。

「そうか……そんなに良いもんなのか」

「ええ、だから私のバックのためにクリフさんにはしっかり働いてもらいますよ」

「うん、そうか。なるほどそれは良い。だがなんで俺の取り分がこんなに少ないんだ」

クリフと呼ばれた男、その今までと全く違う雰囲気になんて女は少し怯えたような表情をするがすぐに気を取り直したように指を男に向かって指している。

「私の夢の為に我慢して下さい」

「ふざけるなあ」

男の叫び声が森に響いた。

第二話

「くそ、あいつは本当に油断なんねえな」

あれから約一時間森の中での怒鳴りあいの結果、クリフは新しく更新された指令書を見ながら呟く。

「しかし、あの野郎。ついでみたいに仕事増やしやがって」

クリフは紙に書かれた2つの言葉を見て少し前のことを思い出していた。

『お願いしますねー、クリフさん。ちょうどおんなじ村ですし。豊穰士なんてのはクリフさんにとってはお茶の子さいさいでしょうし、もう一個の方はギルドから直接の依頼ですから点数もたくさんもらえますよ』

クリフは大きな溜め息をつく。

だが、最終的にここまで不快感を露わにしながらも仕事をするのに理由がある。

クリフはギルドと呼ばれる機関に属しているのだが、そこでは何人もの人を登録しておき依頼があつた時、その依頼に適した人物に仕事を割り振るといふ制度をとっている。また点数というのがそれぞれの仕事に割り振られておりその点数を集めることでより良い仕事を割り振られるのだ。そのせいであまり逆らってばかりいると仕事が全く割り振られなくなりこの仕事が唯一の収入源であるクリフにとっては非常に困つたことになるのだ。

そして溜め息をもう一つつくこんな田舎にしては妙に立派な門を

見上げた。こんな田舎に関わらず門にはWELCOMEと書かれた垂れ幕がかかっていた。

「誰がこんなところ来るんだよ」

クリフは今日何度目かも分からない溜め息をついたのだった。

第三話

ここには悲鳴が溢れていた。沢山の人が暮らしていたのだろう、レンガにより建てられたいくつかの家。耕された農地、それは人の夢の一つの形。だが、それは今や人の笑顔を生むための物ではなく、ただの残骸。

それらは大きな力によって無理矢理破壊されていた。その間を逃げ回る人、人、人。

あるものは子供を抱き、愛するものの手を引き、年老いた親を背負い、死から逃げていた。

壊れた廃墟の中心で哮る竜巻。

それが人々に死を与えていた。全ての者に平等に。そしてたくさん悲鳴のなかで一際大きく甲高い赤ん坊の鳴き声が響きわたり、その世界は唐突に終わりを迎えた。

そこは今までの世界とは全く違った場所、小鳥の音が聞こえてき、カーテンなどついていない窓からは太陽の光が入ってくる。

「またあの夢だ」

そしてその平和な世界で一人の少女は頭を抑えながら小さなベッドの上に更に小さな体を起こす。

その目の下にはかすかであるが涙のあとがあった。

「泣いてたんだ」

少女は鏡を見て目の下をこすりながら言う。年はまだ十に届いていないだろう。小さな背丈に不りつあいな程にのばされた髪の毛は寝癖によってボサボサになっている。

手に持った鏡を見てそれを確認した少女は最早先程見た悪夢などは頭の中に無いのだろう、布団から体を抜け出すと洗面所に向かって歩き出す。窓の外には丈夫なレンガ造りの建物が朝日に照らされていた。まるで壊れた建物を修理したように不自然に色の違うレンガで造られた家が。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2275d/>

夢の世界

2011年1月28日02時35分発行